

SUZUKA
Sound
of
ENGINE
20152014年10月24日
株式会社モビリティランド
鈴鹿サーキット

～心に残るあの音を、鈴鹿で再び。～

EVENT INFORMATION Vol.4

SUZUKA Attack Lap&High Speed
主なエントリー車両のご案内

日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは2012年に50周年を迎え、次の50年に向けてスタートいたしました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた新たなヒストリックイベントを開催します。

自動車・バイクへの興味喚起の機会と、モータースポーツへの憧れを持っていただくことを目指し、国内のみならず海外からも歴史的価値観が高く、皆様の印象に強く残っている往年の名車を招聘し、ゲストの方たちとともに歴史を振り返るものです。

様々なイベントをご用意しておりますが、今回はその中の「SUZUKA Attack Lap&High Speed」の主なエントリー申込み車両を紹介させていただきます。

※エントリー車両は参加が確定している車両ではありません。2014年12月21日参加受付終了後、書類審査を経て正式に参加が確定します。

SUZUKA Attack Lap&High Speed

様々なレーシングマシンによる『当時の走り』を楽しんでいただくもので、マシンオーナーの皆様には、貴重なマシンのお披露目の場所として、また交流の場としてご参加いただけるものです。

イベント名称	SUZUKA Attack Lap&High Speed
種目名	サーキットトライアル形式イベント走行
開催日程	2015年5月22日(金)フリー走行(20分) 2015年5月23日(土)先導走行2周+サーキットトライアル15分 2015年5月24日(日)先導走行2周+サーキットトライアル15分
開催場所	鈴鹿サーキット フルコース (2輪:5.821km / 4輪:5.807km)

主なエントリー申込み車両

Lotus 23B(1964年式)

F1で有名なイギリスのロータスが、1962年にデビューさせた純レーシングスポーツがロータス23。エンジンをミッドシップに搭載し、低く流麗なスタイルはファン、関係者に衝撃を与えた。ロータス23は1963年に鈴鹿サーキットで開催された第1回日本グランプリのメインイベント、国際スポーツカーレースに出場し表彰台を独占する速さを見せた。その後、進化版の23Bが様々なレースに参戦し活躍。鈴鹿で優勝したピーター・ウォアは後にF1チームを率いることになる。



Lotus 23B

Cooper Maserati(1967年式)

それまではプライベートチームにシャーシを供給していたクーパーが、1955年から本格的にF1に参戦を開始。1957年はエンジンをドライバーの後方に搭載するマシンを投入。このミッドシップレイアウトはその後F1の主流となった。1959年、60年にドライバーズチャンピオン、コンストラクターズ(製造者)チャンピオンのダブルタイトルを獲得。1966年からマセラティのV12エンジンを搭載。1967年はヨッヘン・リント、ペドロ・ロドリゲスがステアリングを握り活躍した。



Cooper Maserati

McLaren M4A(1967年式)

トップドライバーのブルース・マクラレンがレーシングカーの製作を始め、1966年からF2用シャーシを用いてF1に参戦。翌1967年の前半もF2マシンM4Aを使用したM4BでF1に参戦した。マクラレンは後にF1トップチームに成長し、1988年はHondaエンジンを搭載しアイルトン・セナがドライバーズチャンピオンに輝くとともに、コンストラクターズ(製造者)チャンピオンのダブルタイトルに輝いた。



McLaren M4A

CHEVRON B16(1969年式)

イギリスのレーシングコンストラクターが制作した市販GTカー。フォード・コスワースのエンジンを搭載したB16は1969年のニュルブルクリンク500kmに参戦し、デビューウインを飾った名車。1970年にはマツダのロータリーエンジンを搭載したシェヴロンB16がル・マン24時間レースに参戦し話題を集めた。その後、後継のB19が日本のGC(グランチャンピオン)レースに出場。進化しながらGCで長年にわたって活躍した。

Lotus 72(1972年式)

ロータスが1970年にデビューさせたF1マシン。当時フロントに配置されていたラジエターをボディサイドに移し、ブレーキをインボード化。全体をウエッジ・シェイプ(楔形)にした革新的デザインで登場。1977年までの長きにわたって活躍した。その間1970年、72年にドライバーズチャンピオン、70年、72年、73年にコンストラクターズ(製造者)チャンピオンを獲得した、ロータスを代表するマシン。

SUZUKI RM62(1962年式)

1961年からヤマハ、スズキが世界GPの125cc、250ccクラスに参戦を開始。すでに参戦していたHondaを加え日本の3メーカーが同じクラスで対決することになった。翌62年に50ccクラスが新設されるとHonda、スズキが参戦したが、エルンスト・デクナーを擁したスズキが強く、RM62は全7戦中5勝を獲得する強さで、初の世界GPタイトルを手にした。

Honda CR110(1962年式)

50cc欧州選手権人気の高まりから1962年には世界GPに50ccクラスが新設された。これに合わせて作られたのがHonda CR110のレーサーモデルだ。世界GPデビュー戦となったマン島TTでは9位。国内では九州・雁ノ巣でのクラブマンレースで見事デビューウインを飾った。その後、開場したばかりの鈴鹿サーキットで開催された第1回全日本選手権ロードレースにも参戦。ノービス50ccクラスでは表彰台を独占する活躍をみせた。



Honda CR110